



目次

1/		現状の課題/分析	——
2/		政策の概要	——
3/		政策の主体	——
4/		財源	——
5/		リスクとその対策	——
6/		実現する社会	——

～高校生と見つける東京の新しい魅力～

芝高校1年 植野 榎本 鬼倉 福頼 有光

1. 現状の課題①： オーバーツーリズム

東京都の課題として考えられること

①観光客の集中

観光地とそうでない場所の偏りが極端

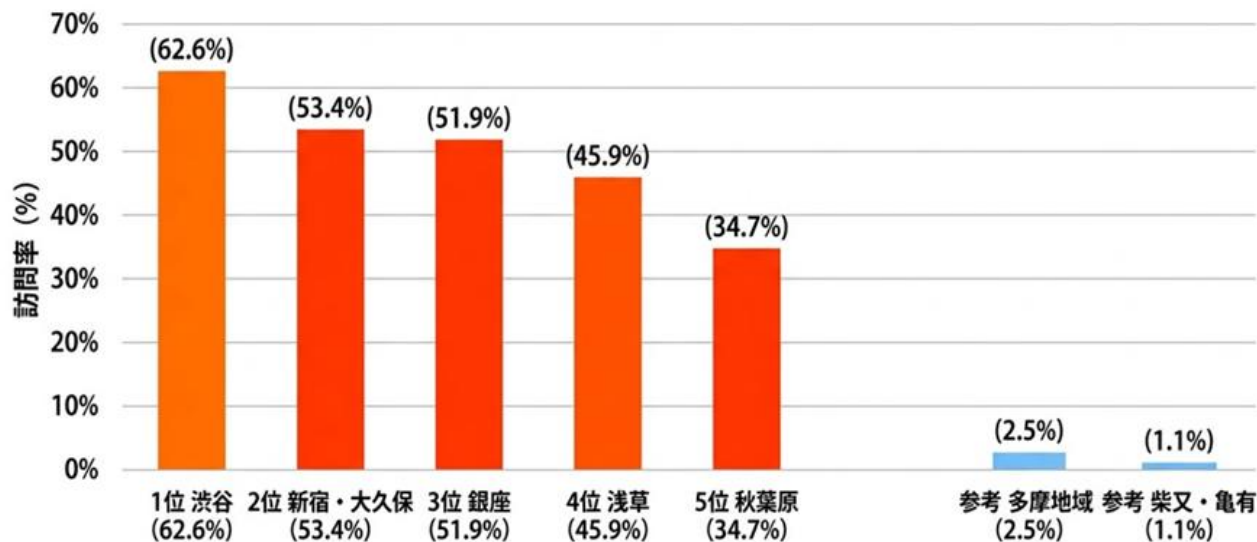


2. 現状分析

図A：訪都外国人観光客の訪問エリア集中度（令和6年 東京都調査より）

主要な観光地にだけ
人が集まる現状

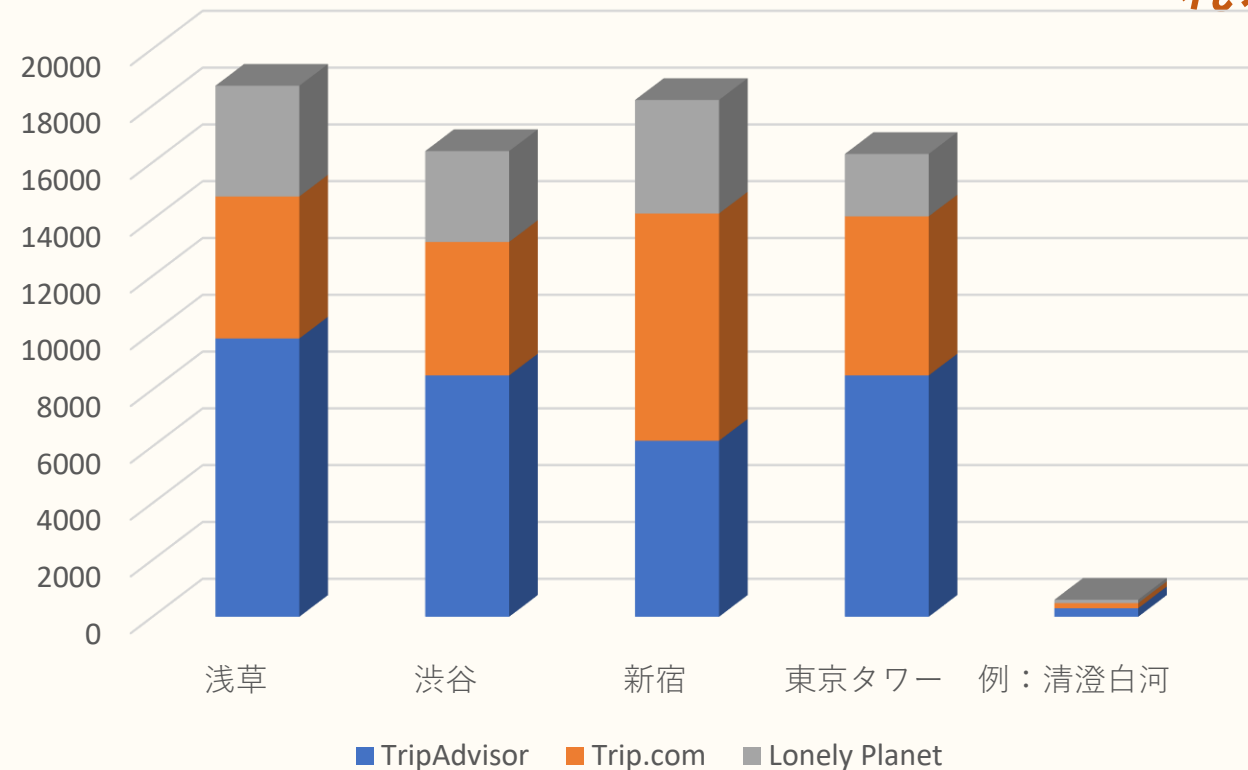
主要5エリアとその他エリアの圧倒的な訪問率格差



出典：東京都産業労働局「令和6年 国・地域別外国人旅行者行動特性調査」

各観光地の英語での紹介件数

→外国人観光客が英語で
得られる情報が偏っている



→限られた情報だけで観光地
を選んでいると言える

3. 現状の課題②： 高校生の英語能力

全国共通の課題として考えられること

② 高校生の実践的な英語力の低さ

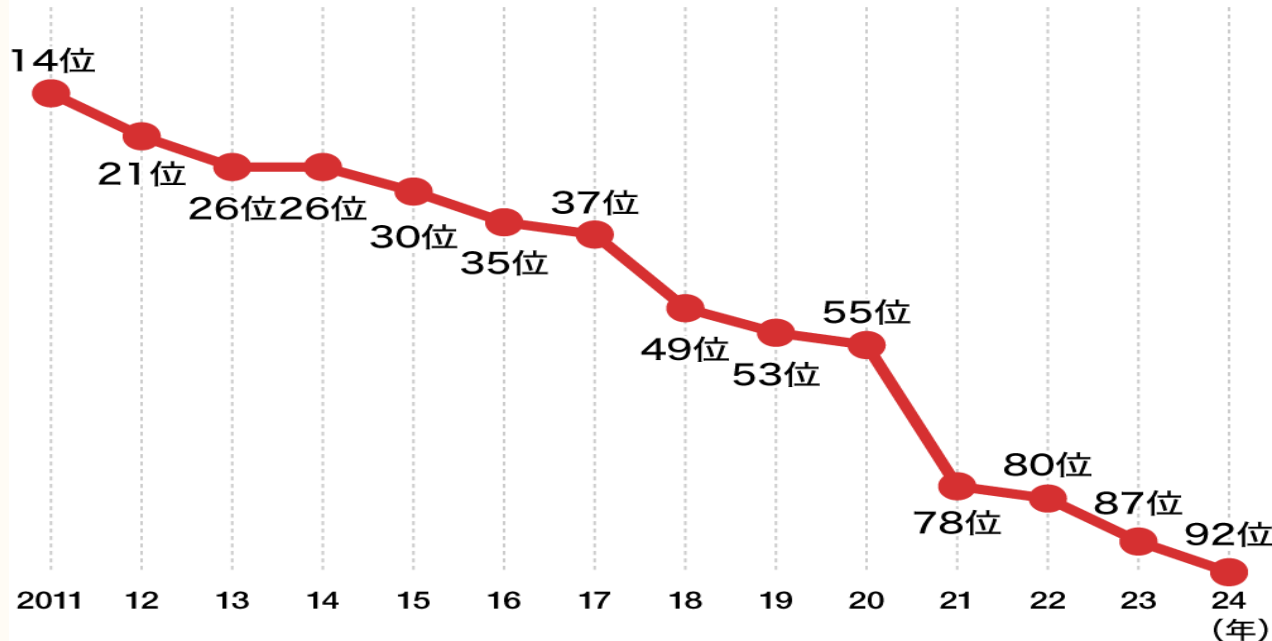
ネイティブの生の英語に触れる機会が少ない



他国の高校生と比べ英語能力が低い



EF EPI英語能力指数での日本の順位



EF 英語能力指数
(EF EPI) ...世界113
カ国を対象とした英語
能力に関する調査

nippon.com

「外国人観光客に情報が届かない問題」 + 「高校生に実践の場がない問題」
⇒観光客と高校生の両方にメリットのある解決策があるのでは？

5. 施策の主体

東京都公式ブランド



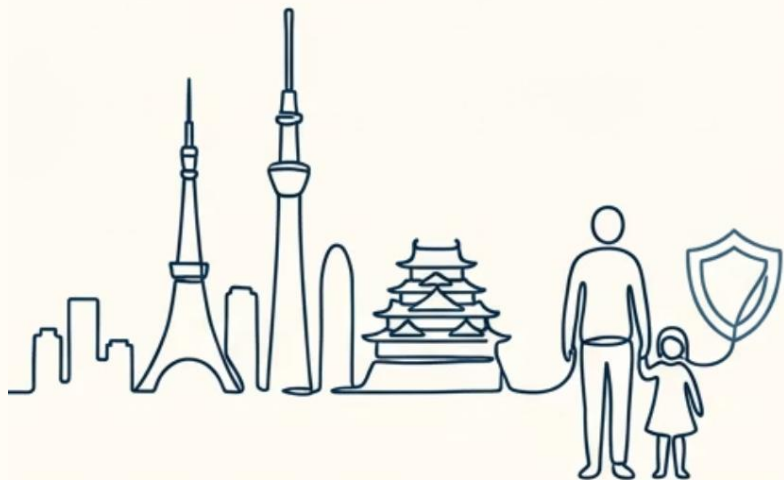
東京都教育庁が主体となって、
東京都観光局と民間企業が協力して
システムを構築

東京都が主体となる意義

「東京都公式」の信頼性



観光客の安心利用へ



4. この政策のゴール

2030年までに...

- ・ 主要五地区以外の地域の訪問率を20%まで上げる〈現状は10%〉
- ・ アプリの利用者20万人〈東京の高校生の30% + 観光客〉

6. 財源と実現可能性

3000万円

アプリの初期開発費用

1500万円

年間運営費

約7億円

東京都グローバル教育予算



国土交通省・観光庁の「オーバーツーリズム対策事業補助金」も活用

→ 必要な年間費用は十分に賄える

7. この政策の懸念と対策 ～安全・安心な設計～



禁止ワードフィルタリング



通報・BAN機能



学校・保護者・生徒の共有アカウント



チャット監視・ログ管理

8. 利用者を増やす施策



1人対1人の強み

個人の事情に合った提案ができる強みを前面に押し出す

『東京都公式』の強み

東京都の観光サイト（GO TOKYO）に無料〈もしくは安価〉で広告を載せられる

9:実現する社会①:観光/教育の変革

三つの“いいこと”

観光客の「消費」から「交流」へ

東京観光が観光客と地域が
つながる「交流」中心のもの
に進化する

観光地が多様に分散

オーバーツーリズムを
解消し、再開発に頼ら
ない持続可能な観光に

英語を学びながら主体性もはぐくむ

都内の高校生は自分から地域の魅力を英語で言語化し、
語学力と主体性を得ることができる



9:実現する社会②:全国への普及

① 東京都公式ブランド ② 学校単位での利用



i

「東京発の新しい英語教育・観光モデル」
として全国の自治体に展開できる

③ 成功後の展開



④ カリキュラム連携



おわりに…

「My local, Your Tokyo」で、
東京を新たな価値を作り出せる都市に

以下一応残しておきます

5. 実現する社会：観光の分散化・高校生の成長

実践的な英語コミュニケーション

異文化理解と主体性の醸成

地域の価値を言語化する力

オーバーツーリズムの解消へ

高校生自身のおすすめスポット



都内の観光客の分散化


ほかにも...

地域ごとの魅力の再発見

交通機関の混雑・ごみ問題の緩和



10. まとめ

 英語教育の革新

低予算で実践的な英語力
と主体性を育てる。

 観光の分散化

地域の隠れた魅力を発信し、
オーバーツーリズムを緩和

 東京都主導の展開

安全・安心な運営で
全国への波及へ



「My Local, Your Tokyo」で、

オーバーツーリズムと実践的英語教育の不足という二つの課題を、同時に解決